

四谷の

千枚田だより



第 235 号



令和四年度 四谷の千枚田地域 振興協議会の開催

開催日 令和五年三月十七日

開催場所 新城市開発センター

指定棚田地域振興活動の実施主体は次に掲げる四谷の千枚田地域振興協議会の参加者で構成されている。鞍掛山麓千枚田保存会会長、四谷集落協定代表、地域住民(四谷区長)、NPO法人国内産米の伝統食文化推進ネットワーク理事長、(株)横浜ゴム新城工場業務課長、チームTAKO、愛知東農業協同組合課長、公益財団法人農林業公社しんしろ事務局長、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課及び農政課、新城市産業振興部農業課長で構成。事務局は鳳来総合支所地域課に置かれている。

会議の概要

開催にあたり会長の小山舜二は、『日頃は、四谷の千枚田に、何かとご協力、誠にありがとうございます。また、本日は、ご多忙の中、「四谷の千枚田地域振興協議会」にご出席ありがとうございます。この協議会は、令和三年二月十二日に委員の承認を得て制定、そして、四月十八日、国の「指定棚田地域振興活動計画」に認定されました。』

なお、この制度の特徴は、農林水産省以外の総務省、文部科学省、国土交通省、環境省など、すべての省庁と超党派の同意で成立されたものです。

農林水産省は、令和四年二月十四日、全国でも優良な二百七十一の棚田をポスト棚田百選「つなぐ棚田遺産」として選定。四谷の千枚田も選定されました。

そして、つい先日(三月九日)に全国二百七十一の「つなぐ棚田遺産」選定地区から棚田地域の振興等に貢献する三十九の企業・大学等に農林水産省から感謝状が贈呈されました。

その一つ、「未来へつなぐ部門」に「四谷の千枚田」の未来継承と環境保全に大きな力を頂いている(株)丸八製菓さんに感謝状が贈呈されましたことをご報告申し上げます。

もう一つは、内閣府が絡んだあしたの日本を創る協会、NHK、読売新聞東京本社などが主催する「令和四年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」にレポート応募した結果、「こどもたちや地元企業とともに活動を展開したことで、持続的な取組になっている点が高く評価でき

る。地域の宝を守り続ける見本のよきな活動である。」と評価され、昨年の十一月二日、鞍掛山麓千枚田保存会が主催者賞を受賞しましたことをご報告いたします」と挨拶。

協議事項

本会議は、令和四年度の初めての顔合わせのため、自己紹介を行い、規約第十二条第二項に基づき小山会長が議長に、議長の指名で議事録署名人を四谷集落協定代表の村雲伸一さん、四谷区長の林義明さんの二名にお願いし、議事を進行した。指定棚田地域振興活動の内容として事務局から項目別に(1)令和四年度事業(実績)報告(2)令和五年度事業計画を併せて説明があった。

①棚田等の保全○管理面積の維持○耕作放棄の防止・削減では千枚田入口周辺、ふれあい広場、農道、周辺林地、無住地の荒廃農地等の草刈り、水路の除伐、防獣柵設置等、(延べ百九十八名)、稲作勉強会(十五名)。②棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮○農産物の供給の促進では千枚田五平餅として古米の出荷販売、新米の限定販売。○自然環境の保全・活用ではアプリカ地域「稲作のための中核的農学研究者の育成」の技術研修(国際協力機構)。大学生の地域貢献の研修などの受入れ。小学生の校外学習、地元小学校、豊橋調理製菓専門学校、愛知東農協こども農学校、ヤマサちくわの稲作体験など。○良好な景観の形成ではリアル案山子の管理など。③棚田を核とした棚田地域の振

興○棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興ではお田植感謝の夕べ、収穫感謝祭についてはコロナ禍で中止、令和五年度は実施予定。第5回「四谷の千枚田」絵画コンクール(応募数四百四十五点)。小学校の教科書(道徳)二冊掲載。四谷の千枚田だよりを毎月発行、新城市ホームページによる情報発信を継続。棚田米を活用した六次産業化の推進では千枚田五平餅を郵便局を通して通信販売、道の駅でも販売(丸八製菓)等々が報告、協議はスムーズに可決終了した。

その他事項として事務局から第二十八回全国棚田(千枚田)サミット開催概要の説明があった。



保安全管理された千枚田(四月四日撮)

文集

地元鳳来寺小学校五年生十一名から校外学習「四谷の千枚田」の稲作を通して一年間の活動のお礼として、児童たちの文集とフォトアルバムを担任の植田先生と教頭先生が届けに来てくださった。

文集を読むと、ひとり一人がおコメつくりの大変さを体感。楽しかった代掻きや田植え、田んぼ飛び等々、

四谷の神様、ありがとう！



新城市立鳳来寺小学校 令和4年度 第5学年

僕が千枚田で学んだことは、お米を育てるには、とても力があるということです。代かきのときの足踏みや、いれをかるときなど、がとても大変だと思いました。それらを毎年やっている小山さんは、すごいなと思いました。次にお米作りで一番楽しかったことは、代かきのときにみんなでかえりをかこって、まわりを回ったことです。何かを試みたいで楽しかったです。次にお米作りで一番印象に残ったことは、いれの下の方がとれたことでも、小山さんはとてもかたさん。それにサクとかかっていましたが僕はなかなかサクとかれませんでした。けれど、どんどんかかるといなり。た。小山さんのおかげで千枚田について詳しく知ることができました。ありがとうございました。

小野田心



一年間に学んだ(体験)ことを書き纏めてあった。戴いた手紙を読んで、児童たちは校外学習「四谷の千枚田」を一生の宝として心に刻み込まれたことを感じさせられる礼文であり、児童たちにも故郷の「思いで創り」に役立つ事ができたかと思ってもみた。全員の礼状を紹介したいが、スペースの都合で一人のみの掲載になつてしまったが、何かの機会に是非紹介したいと思っている。

横浜ゴム研修

四月五日、横浜ゴム新城工場新入社員(二十名)、幹部サホート(十一名)の千枚田研修を実施した。到着した社員に新城市鳳来総合支所地域課長坂課長さんは自然に恵まれた四谷の千枚田を皆さんのふるさととして親しんでいただけ

ればとアピール。愛知県新城設楽農林水産事務所小松本建設課長さんは、四谷の千枚田の施設整備(農道など)や環境保全活動にふるさと指導員を通して支援している。等々。保存会長は平成十八年から毎年研修の受入れを行っている。私の持論は「企業は環境に配慮する責務がある」。横浜ゴムが取り組んでいる「千年の杜」の広葉樹の育苗には環境に優しい稲わらを使用して頂いたり、同社が取り組む環境保全活動(河川生物モニタリング調査。ビオトープ造成管理・外来生物駆除)などの活動を通して絆は深い。とそれが歓迎挨拶を行った。高低差二百メートルの概要説明は吉野課長主動で、細部については会長がホローした。(説明内容は湧き水の棚田、転石の石積棚田、モリアオガエル、山崩れの話など、特に環境を重視した説明が多く、嬉しかった。)約一時間でふれあい広場に到着、休憩後、班を編成、ふれあい広場の掃除、草取り、入口付近の市道陥没カ所にアスファルト混合物での保守作業などを行った。交流会では、新入社員が出身地(出身校)や豊富(将来展望)などを自己紹介。その、多くが「一人暮らしをして、彼女を早く見つけた。早く仕事に慣れ、出世したい。働いてお金を貯めて、おばあちゃんを喜ばせたい。外車(ベンツ、アウディ)を買って、彼女とドライブしたい」。などで、社長になりたいまでの希望は聞き漏らした?かな。幹部からは「真面目に働けば外車も夢ではない(多くの幹部が外車に乗っているようであった)。困ったことは、ひ

とりで悩むのではなく、相談することが大切だ。現在、会社では環境を重視したエコタイヤの研究開発を行っている。などの紹介があった。交流会が終わると新人・幹部社員全員がふれあい広場から眼下に広がる棚田に「四谷の千枚田、ありがとう」と大発声、頭を下げた。全員が頭を下げた時、木霊がありがとうと、心地よく響き帰ってきた。



発行

令和五年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二